

— 株主の皆様とのコミュニケーションツール —

クラレ通信

第132期 期末報告書

2012年4月1日～2013年3月31日



CONTENTS

- 1 … 会社概要
- 2 … 株主の皆様へ
- 3 … 2012年度 決算概況
／2013年度 業績予想
- 5 … 【特集1】社長インタビュー
- 7 … 【特集2】セグメント変更のお知らせと
主要製品のご紹介
- 9 … クラレグループトピックス
- 11 … 財務情報
- 13 … 株式情報
- 14 … お知らせ

株式会社 クラレ

社名	株式会社 クラレ
英文社名	KURARAY CO., LTD.
設立	1926(大正15)年6月24日
資本金	890億円(2013年3月31日現在)
東京本社	〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル TEL(03)6701-1000 FAX(03)6701-1005
大阪本社	〒530-8611 大阪市北区角田町8-1 梅田阪急ビル オフィスタワー TEL(06)7635-1000 FAX(06)7635-1005
ホームページ	http://www.kuraray.co.jp

クラレグループの主な事業

ビニルアセテート	ポパール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、EVOH樹脂・フィルムの製造、販売
イソプレン	イソプレン系化学品、ポリアミド樹脂の製造、販売
機能材料	メタクリル樹脂、メディカル関連製品、人工皮革の製造、販売
繊維	ビニロン、不織布、面ファスナー、ポリエステル繊維の製造、販売
トレーディング	繊維製品、樹脂、化学品の輸出入、卸売
その他	炭素材、水処理用高機能膜・システムの製造、販売、エンジニアリング事業

- (注) 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。
2.この冊子に記載の〈〉をつけた名称は、当社グループの製品の商標です。
3.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、億円未満を四捨五入して表示しています。

役員(2013年6月21日現在)

代表取締役社長	伊藤 文大
代表取締役・専務執行役員	山下 節生
取締役・専務執行役員	村上 敬司
取締役・常務執行役員	天雲 一裕
取締役・常務執行役員	川原崎 雄一
取締役・常務執行役員	雪吉 邦夫
取締役・常務執行役員	藤井 信雄
取締役・常務執行役員	松山 貞秋
取締役(社外取締役)	塩谷 隆英*1
取締役(社外取締役)	浜口 友一*1
常勤監査役	蜷川 洋一
常勤監査役	真鍋 光昭
監査役(社外監査役)	山田 洋暉*2
監査役(社外監査役)	藤本 美枝*2
監査役(社外監査役)	岡本 吉光*2
常務執行役員	綾 友幸
常務執行役員	久川 和彦
常務執行役員	伊藤 正明
執行役員	前田 公平
執行役員	マティアス グトヴァイラー
執行役員	山田 修
執行役員	武本 修一
執行役員	小野寺 正憲
執行役員	古宮 行淳
執行役員	保江 真一
執行役員	早瀬 博章
執行役員	渡辺 久一
執行役員	中山 和大
執行役員	阿部 憲一
執行役員	佐野 義正
執行役員	ジョージ アブディ
執行役員	時任 康雄
執行役員	河内 辰雄
執行役員	豊浦 仁

- *1 塩谷 隆英、浜口友一は、社外取締役です。
*2 山田 洋暉、藤本 美枝、岡本 吉光は、社外監査役です。



代表取締役社長
伊藤 文大

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)の国内経済は、震災復興や、原発・エネルギー問題などの重要課題が進展せず、終盤には円安傾向になったものの当年度全体では円高が進展し、低迷しました。海外においては、欧州の金融不安による景気低迷が長期化し、米国では財政の健全化や雇用改善が進まず、景気の本格回復には至りませんでした。新興国経済はアセアン諸国が経済成長に力強さを感じさせましたが、中国は一時の勢いを失い、インド、ブラジル、ロシアも総じて経済成長にブレーキがかかりました。

こうした環境の中、2012年度連結決算の売上高は3,694億円(前期比0.1%増)、営業利益は492億円(同10.1%減)、経常利益は486億円(同9.9%減)、当期純利益は288億円(同8.5%減)となりました。

一方、このような状況においても、当社グループは持続的な成長を実現させるため、2012年度よりスタートさせた中期経営計画「GS-Ⅲ」(2012年度～2014年度)に掲げた主要経営戦略に基づき、コア事業の世界戦略加速のための大型投資やM&Aを実行するとともに、水・環境、エネルギー、光学・電子の各領域において次世代を担う事業の開発を積極的に推進しています。

2013年度は欧州経済の低迷継続が懸念されますが、一方で米国やアセアン諸国をはじめとする新興国の景気回復や、国内においては円高の修正やデフレ脱却に向けた諸政策の効果が期待されます。さらに、「GS-Ⅲ」の主要経営戦略に基づく諸施策を推進し、売上高4,300億円、営業利益600億円、経常利益585億円、当期純利益350億円と、売上・利益とも過去最高を目指します。

また、当社は株主の皆様への利益配分を経営の重要課題と位置付け、持続的な業績向上を通じた増配を基本方針とし、「GS-Ⅲ」期間中においては連結当期純利益に対する配当性向35%以上を目標としています。当期の期末配当金は期初予想値のとおり、1株につき18円とさせていただきます。この結果、当期の配当金は中間配当金と合計しますと1株につき36円(配当性向43.6%)となります。

なお、2013年度の年間配当については、予想連結当期純利益350億円を前提に、1株当たり36円(配当性向35.9%)とさせていただきます。

株主の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

伊藤文大

2012年度 決算概況

金額表示は、億円未満を四捨五入して表示しています。

2012年度の国内経済は、震災復興、原発・エネルギー問題の解消が進まない中で、終盤には円安傾向となったものの、年度全体として円高の進展もあり、低迷しました。海外においては、欧州の金融不安による景気低迷が長期化し、米国では財政の健全化や雇用改善が進まず、景気の本格回復には至りませんでした。新興国経済はアセアン諸国が経済成長に力強さを感じさせましたが、中国は一時の勢いを失い、インド、ブラジル、ロシアも総じて経済成長にブレーキがかかりました。

このような状況においても、当社グループは持続的な成長を実現させるため、2012年度よりスタートさせた中期経営計画『GS-Ⅲ』に掲げた主要経営戦略に基づき、コア事業の世界戦略加速のための大型投資やM&Aを実行するとともに、水・環境、エネルギー、光学・電子の各領域において次世代を担う事業の開発を積極的に推進しています。

2012年度 決算概況

(億円)

	2012年度	2011年度	増減
売上高	3,694	3,690	+5
営業利益	492	547	△55
経常利益	486	539	△54
当期純利益	288	315	△27

期中平均為替レート

円/ドル	83	79	-
円/ユーロ	107	109	-
国産ナフサ価格/KL	57千円	55千円	-

2012年度 セグメント別売上高・営業利益

(億円)

	2012年度		2011年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
樹脂	1,552	489	1,489	499	+63	△10
化学品	790	64	749	91	+41	△27
繊維	572	12	634	11	△62	+1
トレーディング	1,088	34	1,122	35	△34	△1
その他	644	40	664	57	△20	△17
調整額	△951	△146	△968	△145	+17	△1
合計	3,694	492	3,690	547	+4	△55

セグメント別の状況

■ 樹脂

ポパール樹脂は、世界的な景気減速を背景に需要が低迷しましたが、PVBフィルムは建築用途が堅調に推移しました。光学用ポパールフィルムは後半に需要が回復し、販売量が拡大しました。また、水溶性ポパールフィルムは順調に推移しました。なお、事業拡大戦略の一環として、以下の大型投資決定およびM&Aを実行しました。

- 1) ポパール樹脂の世界的需要拡大に対応するための米国テキサス州における生産設備新設(年産40,000トン、2014年9月完工予定)を決定。
- 2) 米国における洗濯および食器洗浄用洗剤包装等、水溶性ポパールフィルムのリーディングカンパニーであるMonoSol社を買収。

EVOH樹脂<エバル>は堅調に推移、特に自動車用途で拡大しました。

■ 化学品

メタクリル樹脂は、前年度後半からの市況低迷の継続および原燃料上昇の影響を受けました。

イソプレン関連では、熱可塑性エラストマー<セプトン>・ファインケミカルは、欧州・アジアの需要が低調に推移し、競合激化の影響を受けましたが、液状ゴムは順調に拡大しています。なお、高性能タイヤ分野などにおける旺盛な需要に対応するため、液状ゴムの鹿島事業所での増設(年産7,000トン、2014年7月稼働開始予定)を決定しました。

耐熱性ポリアミド樹脂<ジェネスタ>は、LED反射板・コネクタ用途が堅調に推移し、自動車用途も拡大しました。

メディカルは、歯科材料が堅調に推移しました。

2013年度 業績予想

■ 繊維

ビニロンは、アスベスト代替のFRC（繊維補強セメント）用途および自動車ブレーキホース用途が欧州・アジア市場の停滞を背景に需要が低迷しました。高強力繊維〈ベクトラン〉は、用途開拓が順調に進みました。

人工皮革〈クラリーノ〉は、ランドセル用途が好調に推移しましたが、靴用途の需要が低調でした。なお、当事業は環境対応型新プロセスへの集約推進、既存プロセスの中国移管などの構造改善を進めています。

■ トレーディング

ポリエステルをはじめとする繊維関連事業は前年並みで推移しましたが、樹脂・化学品関連の輸出版売が伸び悩みました。

■ その他

活性炭事業は、エネルギー関連用途を主体に堅調に推移しました。活性炭以外の事業については総じて景況悪化の影響を受けました。

なお、リチウムイオン二次電池向けハードカーボン事業では株式会社クレハ・バッテリー・マテリアルズ・ジャパンへ資本参加するとともに、同社との合併による植物系ハードカーボンの生産会社を設立、プラント建設に着手しました。

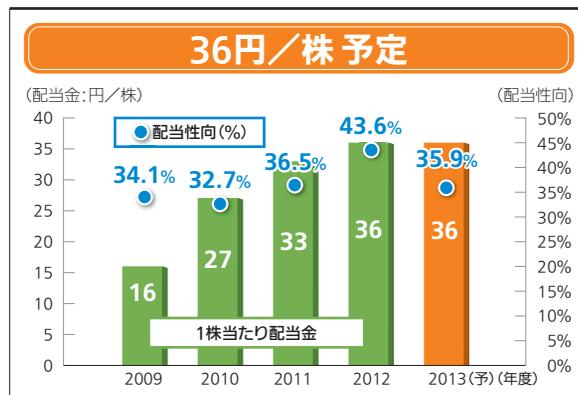
2013年度の経営環境については、欧州経済の低迷継続が懸念されますが、一方で米国やアセアン諸国をはじめとする新興国の景気回復や、国内においては円高の修正やデフレ脱却に向けた諸政策の効果が期待されます。当社は2012年度より中期経営計画『GS-III』（2012年度～2014年度）をスタートさせ、技術革新を通じた新たな製品・用途開発を加速させるとともに、国内・海外を問わず成長余地のある市場・分野での事業を拡大させることにより、持続的な成長の実現を目指しています。加えて、より競争力を高めるべく一層のコスト削減にも取り組みます。なお2013年度の業績予想は、平均為替を米ドル95円、ユーロ125円、国産ナフサ価格61.5千円/KLを前提としています。

2013年度 業績予想

(億円)

	上期	下期	通期
売上高	2,050	2,250	4,300
営業利益	270	330	600
経常利益	265	320	585
当期純利益	160	190	350
1株当り当期純利益	—	—	100円33銭
1株当り配当	18円	18円	36円

2013年度配当金について





「世界に存在感を示す スペシャリティ化学企業」 を目指して

～中期経営計画「GS-Ⅲ」の施策を着実に推進～

代表取締役社長 伊藤 文大

Q1

**中期経営計画「GS-Ⅲ」
(2012年度～2014年度)の初年度
を振り返っていかがでしたか？**

A

2012年度は、欧州の金融不安に端を発する世界景気低迷の影響を受け3期連続の最高益更新は叶いませんでしたが、「GS-Ⅲ」の主要経営戦略に基づく諸施策は着実に実行に移しました。「長期企業ビジョン」で描いた「世界に存在感を示すスペシャリティ化学企業」の実現に向け成長していくための布石はしっかり打てたと考えています。

Q2

**どのような施策を
実行されたのですか？**

A

まずはじめに、米国テキサスのポパール樹脂生産設備新設を決定しました。当社はポパール樹脂を日本、ドイツ、シンガポールの3拠点で生産してきました。ポパール樹脂のリーディングカンパニーとして世界戦略を加速するため、シェール革命による原燃料面での優位性が期待できる米国に本格進出します。

Q3

2013年度の見通しは？

A

欧州の景気低迷継続が懸念されるものの、米国や新興国の景気回復や、国内においてもデフレ脱却に向けた諸政策の効果発現により経営環境は改善に向かうと見ています。こうした環境の下、需要の回復、高付加価値品の伸びなどによ

り、売上高4,300億円、営業利益600億円と過去最高を目指します。

2013年度も2012年度に引き続き、「GS-Ⅲ」の主要経営戦略として掲げている「技術革新」、「地域拡大」、「外部資源活用」に基づく諸施策を着実に実行することを通じて、「長期企業ビジョン」に掲げた「世界に存在感を示すスペシャリティ化学企業」を実現するために、2018年近傍に売上高1兆円の達成を目指していきます。

売上高・営業利益推移



Q4 「技術革新」に基づく施策とは？

A まず、光学用ポパールフィルム差別化品の拡販があります。5m級の広幅品を生産できる新ラインを稼働させるとともに、より薄い製品の開発を推進し、拡販していきます。次に、高耐熱性樹脂〈ジェネスタ〉は、車両の軽量化を目的に金属代替の採用実績が増えている自動車用途、および一般照明用途のLED反射板向けを中心に、さらなる成長を目指します。

その他にも、スマートフォンやタブレットPCなどに用途拡大が期待できる新規高速伝送回路向け素材〈バクスター〉の

生産能力増強・拡販や、生産工程短縮を目的としたビニロン[®]の革新的生産プロセスの開発を推進します。

Q5 「地域拡大」に基づく施策とは？

A ポパール樹脂の世界戦略をさらに加速するために、米国で建設に着手している生産設備の稼働開始に先立ち、北米市場での拡販を進めます。また、食品加工や自動車関連産業の集積に伴い需要拡大が見込まれる新興国において、ガスバリア性樹脂〈エパール〉の市場拡大に注力しています。

Q6 「外部資源活用」に基づく施策とは？

A 一昨年ノリタケ社と統合した歯科材料事業について、シナジー効果のさらなる拡大を図ります。また、米国Amyris社と植物由来原料の供給について提携している新規液状ゴムは、今年中の販売開始を予定しています。電気自動車向けの市場拡大が予想されるリチウムイオンバッテリーについて、クレハ社と負極材の共同事業化を進めており、現在、生産工場の建設に取り組んでいます。



セグメント変更のお知らせと主要製品のご

セグメント変更のお知らせ

旧セグメント(～2013年3月期)

樹脂	*ポパール製品群 (エパール)
化学品	メタクリル イソブレンケミカル (セプトン) (ジェネスタ) メディカル
繊維	ビニロン (クラリーノ) (クラフレックス) ファスニング
トレーディング	ポリエステル トレーディング事業
その他	活性炭 アクア事業 エンジニアリング その他

新セグメント(2014年3月期～)

ビニルアセテート	*ポパール製品群 (エパール)
イソブレン	イソブレンケミカル (セプトン) (ジェネスタ)
機能材料	メタクリル メディカル (クラリーノ)
繊維	ビニロン (クラフレックス) ファスニング
トレーディング	ポリエステル トレーディング事業
その他	活性炭 アクア事業 エンジニアリング その他

*ポパール製品群(ポパール樹脂、ポパールフィルム、PVB樹脂・フィルム)

ビニルアセテート

ポパール PVA樹脂

世界1位

世界シェア

35%

(中国を除く)

合成繊維ビニロンの原料樹脂として工業化されたポパールは、水溶性、造膜性、接着性、乳化性、耐油性、耐薬品性などの特性を持ち、紙加工剤、接着剤や塩化ビニル樹脂の重合安定剤などのさまざまな用途で使用されています。



ポパールフィルム

世界1位

世界シェア

80%

(光学用途)

光学用ポパールフィルムは、薄型大画面テレビ・タブレット端末などの液晶ディスプレイに欠かせない偏光板のベースフィルムとして、また水溶性ポパールフィルムは、洗剤・農薬などの個包装用フィルムなど、幅広い分野で使用されています。



〈エパール〉EVOH樹脂

世界1位

世界シェア

65%

プラスチックの中で最高レベルのガスバリア性(気体を通さない性質)を持つ樹脂です。酸素を遮断し内容物の劣化を防ぐため、食品包装材として普及しています。また、ガソリンの揮発を防ぐため、自動車のガソリタンクにも使用されています。さらに、大型冷蔵庫の真空断熱板にも採用され、省エネに貢献するなど、用途を拡大しています。



〈モビタール〉PVB樹脂 / 〈トロシフォル〉PVBフィルム

ポパールから生まれたPVB樹脂〈モビタール〉は、接着力と透明性に優れ、インクやファインセラミックスのバインダーなどに活躍しています。また、PVB樹脂を原料とするPVBフィルム〈トロシフォル〉は、合わせガラス用中間膜として建築用を中心に、自動車用や太陽電池パネルの封止材としても使用されています。



イソブレン

〈セプトン〉水添スチレン系熱可塑性エラストマー

世界2位

世界シェア

20%

〈セプトン〉は、成形性、リサイクル性に優れており、自動車、家電、雑貨などに用いられる各種部材の高機能化ニーズとともに、幅広い分野での採用が拡大しています。



〈ジェネスタ〉耐熱性ポリアミド樹脂

世界初

世界シェア

100%

独自の技術から生まれた新しい耐熱性ポリアミド樹脂。携帯電話やパソコンなどの電子部品はもちろん、LED液晶テレビのバックライトや、自動車分野にもその用途は拡大しています。



液状ゴム

イソブレン、ブタジエン等を原料とした低分子量の液状ゴムで、その特長を生かした自動車用タイヤの添加剤、高機能粘接着剤などの用途を中心に、グローバルな展開を行っています。

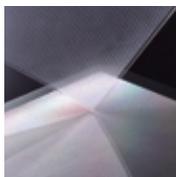


紹介

機能材料

メタクリル樹脂

透明性、耐候性、光沢性、耐擦傷性などの特長を生かし、自動車、家電、雑貨などさまざまな分野に採用されています。近年では液晶ディスプレイ向け導光体などの光学部品分野で使用されています。



歯科材料

国内1位

国内シェア

40%

(接着剤)

天然歯に近い歯科修復を可能にします。高品質とブランド力を誇る〈クリアフィル〉シリーズを筆頭に、各種歯科材料を開発、その展開は日本から世界へと拡大しています。



〈クラリーノ〉人工皮革

世界1位

世界シェア

25%

天然皮革に学んだ精緻な構造と高い機能性を兼ね備えた人工皮革。ランドセルなどのかばん、各種シューズ、またボール、手袋、衣料、インテリアなどに採用されています。



トレーディング

ポリエステル

独自ポリマーの応用などにより特徴ある素材を開発し、衣料分野や産業資材分野、不織布の原料などに展開しています。

※トレーディングではポリエステル系繊維の他、樹脂、化学品などのクラレグループ製品および他社品、加工品を取り扱っています。



繊維

ビニロン／〈クラロンK-II〉PVA繊維

世界1位

世界シェア

80%

(中国を除く)

高強度、低伸度、親水性などのユニークな機能を持つ合成繊維ビニロンは、アスベスト(石綿)代替のセメント補強材、乾電池のセパレーターなど産業資材として展開。また〈クラロンK-II〉は、水溶性や高強度などの機能を持つ繊維です。



〈クラフレックス〉／〈フレクスター〉不織布

吸水性、吸塵性、通気性、柔軟性に優れた〈クラフレックス〉は各種ワイパーやマスク、救急絆創膏などに、また伸縮性、断熱性、吸音性に優れた〈フレクスター〉は包帯や障子、畳、遮音床、吸音パネルなどに活用されています。



〈マジックテープ〉面ファスナー

国内1位

国内シェア

60%

ワンタッチでしっかり留めることができるため、衣料や靴、かばん、メディカル製品から自動車部材などの工業資材までさまざまな分野で活躍しています。



その他

〈クラレコール〉活性炭

国内1位

国内シェア

30%

蒸散ガソリンの吸着、水処理用途、キャパシタの電極材など環境・エネルギー分野で市場を拡大する活性炭。微細な孔を自在に開け、多様な機能を付加することで、高度化するニーズに対応します。



〈マイクロフェード〉パラスト水管理システム

海の生態系を守るため、船舶のパラスト水をフィルターと活性物質により処理するシステム。省電力で、さまざまな海域での性能安定性に優れ、幅広い船種に適合します。



2012年度のクラレグループの主なニュース

「2012年度 グッドデザイン賞」をダブル受賞

クラレクラフレックス株式会社は、「2012年度グッドデザイン賞」(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)において、不織布製・衛生ふきん<クラフレックス>カウンタークロスが「グッドデザイン・ロングライフデザイン賞」、不織布製・簡易マスク<ノータッチ>マスクが「グッドデザイン賞」をダブル受賞しました。

「グッドデザイン賞」は、同社では初の受賞となります。「グッドデザイン・ロングライフデザイン賞」はグループ全体でも初受賞です。

今回の受賞を契機に、機能面に加えてこれらの優れたデザインの特徴をアピールすることを通じて、一層の販売拡大を目指します。

<クラフレックス>カウンタークロス

レーヨン製の衛生ふきんです。高吸水性と、雑菌が繁殖しにくい速乾性が特長。衛生ふきんのパイオニアとして、スーパー、外食産業など食品業界で幅広く使用されています。1972年の販売開始から40周年を迎え、「町中の風景に馴染み、今後も生活や社会を支え続ける商品」と評価されました。



<ノータッチ>マスク

高いバリア性と快適性を兼ね備えた簡易マスクです。主に塵やほこり、花粉等の粉じん対策用。着用時の不快感を軽減するために開発された独特の立体形状が、「鳥のくちばしを付けたような表情になる点がちょっとユーモラスで面白い」と評価されました。



クラレノリタケデンタル新

クラレノリタケデンタル株式会社は、株式会社クラレ新潟事業所に建設した新工場において、初の製品出荷式を行いました。

同社は、製造拠点として無機系材料の倉敷工場(愛知県)、有機系材料の倉敷工場(岡山県)を有しております。新潟新工場は、今後縮小していく倉敷工場を代替するメイン工場として、同社が国内トップシェアを誇る歯科治療用有機系材料である充填材、接着剤などの国内外向け製品供給を担っていきます。



歯科材料製品群

2012年 10月

11月

12月

液状ゴム生産設備の増設を決定

高性能タイヤ分野をはじめとする液状ゴムの旺盛な需要に対応するため、鹿島事業所での増設を決定しました。

設備増設の背景

- クラレグループのコア事業の一つであるイソブレン系事業の拡大戦略の一環。
- タイヤ製造時の加工性向上に加え、燃費性能やグリップ性能などタイヤの機能向上に寄与する材料として需要拡大を見込む。
- 現在、タイヤ用に開発を推進している新規植物系(ファルネセン)液状ゴムの本格展開にも対応。



液状ゴム

設備増設の概要

場所	鹿島事業所(茨城県神栖市)
能力	年産 +7,000トン
稼働時期	2014年7月予定

MonoSolがP&Gの年間最優秀パートナーに選定

水溶性ポパールフィルムのリーディングカンパニーであるMonoSol(以下、モノソル)は、プロクター・アンド・ギャンブル社(以下、P&G)の2012年最優秀Connect+Developパートナーに唯一選ばれました。これは、モノソルのイノベーションによるP&Gへの業績貢献が評価されたもので、両社の強い提携関係を証明しています。

をご紹介します。

※記載している情報は発表日時点のものです。

新潟工場での初出荷式

クラレノリタケデンタル新潟工場

場所	株式会社クラレ新潟 事業所内(新潟県胎内市)
生産能力	年産110万セット
主な 製造品目	歯科用接着剤・充填材、 歯冠材料用硬質レジン

クラレノリタケデンタル株式会社

資本金	3億円 (株)クラレ66.7%、 (株)ノリタケカンパニー リミテド33.3%
事業内容	歯科用接着剤・充填材、 歯冠材料用硬質レジン、 歯冠用セラミックス、歯科用石膏、 CAD/CAM機器など



新潟工場の外観

JR岡山駅前に広告塔が復活

当社は岡山駅前に1960年代半ばに広告塔(ネオンサイン)を設置し、岡山駅前の顔として親しまれていました。しかしながら、2011年1月、当時広告塔を設置していたビルの都合により撤去を余儀なくされました。今回、場所を移動し、2年ぶりに復活させたものです。

新広告塔は、「kuraray」のグループマークを配した白と青の2色のシンプルなデザインとしました。岡山駅東口側の広告塔メイン面には、当社の耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉を反射板に採用したLEDを使用。また、LED大型広告塔では国内初の試みとして、盤面の点滅の際にグループマーク・社名と背景を同期させる明るさの階調制御(グラデーション)を行っています。(点灯時間は日没から午前0時30分まで) LEDならではの色の鮮やかさと点滅による演出で、夜の岡山駅前に新しい彩りを添えるとともに、メイン面の裏側には、当社のマスコットであるアルパカのクラレちゃんも登場。新広告塔のアクセントとなっています。



広告塔メイン面(昼間)



広告塔メイン面(夜間)



アルパカのクラレちゃんも登場!
(メイン面の裏側)

2013年 1月

2月

3月

4月

P&Gがモノソルと協働して開発したのが、「Tide PODS」※1(一回量の洗剤を個包装した製品)です。同製品は2012年に発売されたばかりですが、そのユニークな見た目や感触、優れた性能と利便性が好評で、米国の個包装洗濯用洗剤分野で68%ものシェアを獲得しています。(2012年12月現在)

「Tide PODS」は、洗剤、しみ取り、漂白剤の3つの溶剤が1個のカプセルに、それぞれ別の仕切りに入っています。同製品の開発のためにモノソルは、水にすぐに溶け、かつ濡れた手で触っても破れない独自のフィルムを新規開発しました。

※1「Tide PODS」2012年に新発売された個包装洗剤。P&Gのブランド。



P&Gの「Tide PODS」

2012年4-9月のクラレグループトピックス

- クラレノリタケデンタル株式会社が発足
- 水溶性ポパールフィルムのリーディングカンパニーモノソルの買収を決定
- 米国におけるポパール樹脂生産設備の新設を決定
- バラスト水管理システム〈マイクロフェード〉の本格販売を開始
- タイ現地法人を設立、営業を開始
- リチウムイオン二次電池向け植物系ハードカーボン生産設備新設を決定

2012年度

連結損益計算書の要約

(単位:億円)

科目	当期*1	前期*2	増減
売上高	3,694	3,690	5
売上原価	2,495	2,465	29
売上総利益	1,199	1,224	△ 25
販売費及び一般管理費	707	677	30
営業利益	492	547	△ 55
営業外収益	42	37	5
営業外費用	48	45	3
経常利益	486	539	△ 54
特別利益	—	8	△ 8
特別損失	37	41	△ 4
税金等調整前当期純利益	449	507	△ 58
法人税、住民税及び事業税	159	182	△ 23
法人税等調整額	0	5	△ 5
少数株主損益調整前当期純利益	290	320	△ 30
少数株主利益	2	5	△ 3
当期純利益	288	315	△ 27

*1: 2012年4月1日～2013年3月31日 *2: 2011年4月1日～2012年3月31日

連結貸借対照表の要約

(単位:億円)

資産の部	当期*1	前期*2	増減
流動資産	2,572	2,691	△ 119
現金及び預金	462	315	147
受取手形及び売掛金	838	806	32
有価証券	317	720	△ 403
棚卸資産	833	744	89
繰延税金資産	57	56	2
その他	72	58	15
貸倒引当金	△ 7	△ 8	0
固定資産	3,300	2,542	758
有形固定資産	1,813	1,529	284
建物及び構築物	419	345	74
機械装置及び運搬具	823	716	107
建設仮勘定	323	231	93
その他	247	237	10
無形固定資産	513	140	373
投資その他の資産	974	873	101
投資有価証券	835	700	135
その他	139	173	△ 34
貸倒引当金	△ 1	△ 1	0
資産合計	5,872	5,232	639

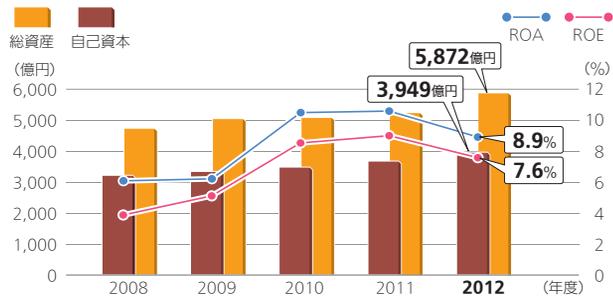
*1: 2013年3月31日現在 *2: 2012年3月31日現在

売上高・営業利益・営業利益率



*営業利益率=営業利益÷売上高×100(%)

総資産・ROA・自己資本・ROE



*ROA(総資産利益率)=営業利益÷期首・期末平均総資産×100(%)

*ROE(自己資本利益率)=当期純利益÷期首・期末平均自己資本×100(%)

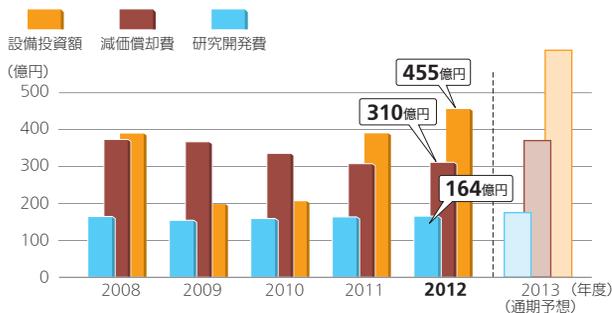
※損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の金額表示は、億円未満を四捨五入しています。

(単位:億円)

負債の部	当期*1	前期*2	増減
流動負債	1,114	817	298
支払手形及び買掛金	370	329	41
短期借入金	309	138	171
その他	435	350	85
固定負債	743	752	△ 10
社債	100	100	—
長期借入金	282	420	△ 138
その他	361	233	128
負債合計	1,857	1,569	288
純資産の部	当期*1	前期*2	増減
株主資本	3,992	3,821	171
資本金	890	890	—
資本剰余金	871	871	—
利益剰余金	2,633	2,467	165
自己株式	△ 402	△ 407	6
その他の包括利益累計額	△ 43	△ 221	178
その他有価証券評価差額金	61	28	33
繰延ヘッジ損益	△ 0	△ 0	0
為替換算調整勘定	△ 99	△ 244	145
年金負債調整額	△ 5	△ 4	△ 1
新株予約権	12	12	1
少数株主持分	53	51	2
純資産合計	4,015	3,663	351
負債純資産合計	5,872	5,232	639

*1: 2013年3月31日現在 *2: 2012年3月31日現在

設備投資額・減価償却費・研究開発費



連結キャッシュ・フロー計算書の要約

(単位:億円)

科目	当期*1	前期*2
1.営業活動によるキャッシュ・フロー	669	426
税金等調整前当期純利益	449	507
減価償却費	310	307
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△ 174	△ 194
その他営業活動による支出	84	△ 195
2.投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 636	△ 250
有形・無形固定資産の取得による支出	△ 432	△ 368
その他投資活動による収支	△ 204	118
3.財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 102	△ 116
有利子負債の純増減額	19	△ 9
自己株式の売却・取得による収支	4	1
配当金の支払額	△ 122	△ 104
その他財務活動による収支	△ 3	△ 4
4.現金及び現金同等物に係る換算差額	20	△ 6
5.現金及び現金同等物の増減額	△ 49	54
6.現金及び現金同等物の期首残高	348	294
7.新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	0
8.合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	0
9.現金及び現金同等物の期末残高	299	348

*1: 2012年4月1日~2013年3月31日 *2: 2011年4月1日~2012年3月31日

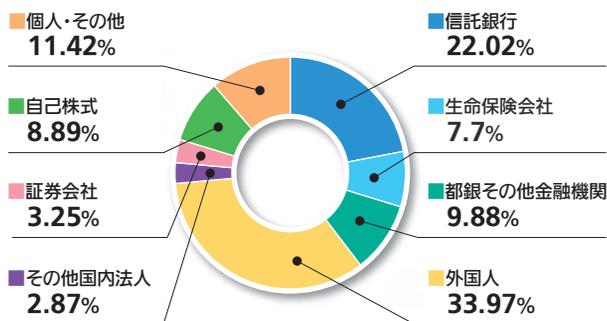
海外売上高推移



株式の状況

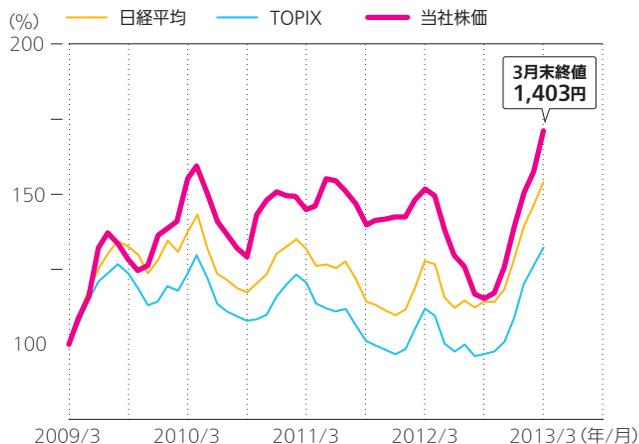
発行可能株式総数	1,000,000,000 株
発行済株式の総数	348,833,876 株
株主数	35,780 名

株主構成



当社株価と主要指標との比較 (2009年3月～2013年3月)

2009年3月を100として、各指標の動きを指数化して比較しています。



株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎ 0120-782-031 (受付時間 土・日・祝祭日を除く9時～17時)

投資家向けページのご案内

当社ホームページ内の投資家向けページでは、決算情報の提供に加え、決算説明会や株主総会の様様の動画配信などタイムリーに情報を掲出しています。是非ご覧ください。



<http://www.kuraray.co.jp>

クラレ 検索

アンケートご協力のお願ひ 2013年7月31日(水)まで

「クラレ通信」をご覧いただきましてありがとうございます。
今後とも株主の皆様との双方向のコミュニケーションを図っていきたく思います。
つきましては、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。
なお今回より、ご回答からプレゼントのお届けまでの期間短縮を目的に、インターネットによるアンケートを実施します。パソコンから以下アンケートサイトにアクセスの上、ご利用をお願いいたします。

ご回答いただいた方には、
もれなく下記の2点を
セットでプレゼント
いたします。

1 「クラレまる」ミニサイズぬいぐるみ 1体

おなかの部分を押すと「チキウ・カイカイ」と元気におしゃべりします。「チキウ・カイカイ」という摩訶不思議な言葉は「チキウ問題のカイ決に挑むカイ社」の略です。全地球的な課題の解決に、独創的な化学技術で貢献していきたいという思いを込めています。



2 差し込むだけで簡単に密封できるエコフレンドリー商品<エニーロック>(長さ:225mm)2本セット

差し込んでスライドさせる簡単操作で、開封済みのポリ袋を密封することができます。何回も繰り返し使用できるエコフレンドリーな商品です。また、劣化しにくく、かさばらないため、台所、リビング、旅先と様々なシーンでご利用いただけます。



アンケートサイト(画面)への接続方法

Yahoo! JAPAN®やGoogle®などの検索エンジンからアンケートサイトを呼び出します。

株主ひろば

検索

または、下記URLを入力ください。

www.kabuhiro.jp

ご回答方法



アンケートサイト(kabuhiro.jp)画面中央の入力ボックスにアンケートナンバー ●●●●●●を入力して、回答画面にお進みください。

ご回答の操作方法などの問い合わせ先

株式会社アイ・アール ジャパン 株主ひろば事務局
0120-580191 inquiry@kabuhiro.jp
平日 10:00-12:00/13:00-17:00 土日祝日 休み
事務局開設期間:2013年6月24日(月)~2013年7月19日(金)

*インターネットをご利用できない場合は、添付のアンケートはがきにご記入の上、ご返信をお願いいたします(ご回答は、はがき・インターネットどちらか1回のみとさせていただきます)。
*なお、勝手ながらアンケートは7月31日(水)をもって締め切らせていただきますので、予めご了承をお願い申し上げます。



クラレは世界的な社会的責任投資(SRI)株式指数の構成銘柄に選定されています。

kuraray

【表紙の写真について】

当社グループ社員が撮影した写真を表紙に使用しています。

撮 影 者：(株)クラレ岡山事業所産資開発部
楠戸 一正

タ イ ト ル：白馬大池に残るハートマーク

撮 影 場 所：白馬大池／長野県北安曇野郡小谷村

撮影者のコメント：日本百名山の登頂を達成した時の写真です。祝福に駆けつけてくれた社内外の仲間23名と最後の一座「白馬岳」に登頂し、そのまま北アルプスを縦走。標高2,379mにある湖のほとりで見かけたハートマークの雪渓に思わずシャッターを押しました。